
【特集】世界のベーシックインカム運動の現状と課題——韓国

特集にあたって

岡野内 正

2021年度からの大原社会問題研究所共同研究プロジェクト「SDGs推進体制下の人類社会における世界のベーシックインカム運動の現状と課題」（岡野内正代表，他40名）の成果を公開する本誌特集の第4回目として，今回は韓国のベーシックインカム運動に関する2論文を収録する。

韓国では，とりわけ青年層の不安定就労層比率の増加が，深刻な社会問題となっている。それと呼応するかのように，ベーシックインカム運動の独自の展開もめざましく，前回の大統領選挙の結果次第で，世界初のベーシックインカム導入国となる可能性が高まり，世界的に注目を集めた。

本特集は，その運動の中心にいた当事者である韓国ベーシックインカム・ネットワーク事務局長による回顧と展望，そして現在は日本の大学で教える韓国の若手社会運動研究者による独自の分析とで構成されている。韓国ベーシックインカム運動に関するこのような試みは，韓国でも日本やその他諸国でも例がなく，貴重なものとなる。

両者を合わせ読むことによって，敵対的な国際関係と不安定な世界経済の最前線に組み込まれた韓国の独自の文脈の中での，ベーシックインカム運動と社会運動の諸相が浮かび上がってくる。

ベーシックインカム研究や韓国研究のみならず，より広い見地から本特集が示す人類社会の問題解決に挑む模索の歩みを読み取り，実践的にもさまざまに活用していただけることを願う。

（おかのうち・ただし 法政大学社会学部教授）